

協働事業概要書

課名 消防署

下記のとおり、協働事業を提案し、連携団体を募ります。

なお、『まちを育む 市民と行政の協働ルールブック』に定める事項を理解した上で、事業を遂行します。

提案タイプ	行政提案型 “はばたき”
提案事業名	救命講習指導協力事業
事業の分野	<input checked="" type="checkbox"/> 保健・医療・福祉 <input type="checkbox"/> 社会教育 <input type="checkbox"/> まちづくり <input type="checkbox"/> 観光の振興 <input type="checkbox"/> 農山漁村又は中山間地域の進行 <input type="checkbox"/> 文化・芸術・スポーツ <input type="checkbox"/> 環境の保全 <input type="checkbox"/> 災害救援 <input type="checkbox"/> 地域安全 <input type="checkbox"/> 人権擁護・平和推進 <input type="checkbox"/> 国際協力 <input type="checkbox"/> 男女共同参画社会の形成 <input type="checkbox"/> 子どもの健全育成 <input type="checkbox"/> 情報化社会の進展 <input type="checkbox"/> 科学技術の振興 <input type="checkbox"/> 経済活動の活性化 <input type="checkbox"/> 職業能力の開発・雇用機会の拡充支援 <input type="checkbox"/> 消費者の保護 <input type="checkbox"/> 団体運営への支援 <input type="checkbox"/> その他()
事業期間 (予定)	令和7年4月1日 から 令和10年3月31日まで
事業概要 (後述の内容をまとめたものを記載してください) ※300字以内 (この欄の記載内容は、ホームページ等で公表します。)	<p>応急手当（AEDの使用と心肺蘇生）を市民に普及させるため、消防署は例年150回程度の救命講習を開催しているが、その都度講習の指導者を確保することに苦慮している。市民活動団体に指導者として参加協力していただくことによって、受講者の希望日時に講習を開催することができ、応急手当を身に付けた市民を増やすことで救命率の向上を期待するものである。</p>
事業の目的 (「何のために」実施する事業なのか、解決したい課題を記載してください)	<p>応急手当の普及啓発活動は、なかなか目に見える効果が現れにくい活動であるが、このような活動は、長期的に継続して行うことが極めて重要である。現在、救命講習の開催にあたり、救急出動の増加や多忙な日常業務の中で指導者の確保が困難な状況にある。本市では、応急手当を身に付けた市民を増やすことが救命率向上に繋がると考え、年間2,940人以上の救命講習及び救命入門コースの受講者数を目標に応急手当の普及啓発を推進している。この目標達成のため、多くの指導者を確保することを目的とする。</p>
事業の効果 (事業によって「何が」どう良くなるのかを記載してください)	<p>指導者が増えることによって、市民ニーズに合わせた日時に救命講習を開催することができ、多くの市民が受講することで応急手当の実施率や心肺停止傷病者の救命率向上が期待される。また、非番日に動員される消防職員の指導者を減らすことができるため、時間外勤務手当の削減につながる。</p>

	<p>さらに、市民活動団体が指導者に加わっていることで、受講者は応急手当が難しいことではなく、より身近なこととして行う応急手当の必要性の認識が高まる。</p>
<p>事業の内容 (目的達成のために「何を」「どのように」(内容、実施方法等)実施するのかを具体的に記載してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民が救命講習の指導者となるためには、まずは、応急手当指導員講習等（5日間）を受講し応急手当全般の知識及び指導技術を学ぶ必要がある。 指導員に認定された後は、実際の救命講習で指導補助の経験を積み、最終的には複数のブース内の1ブースを担当して実技指導を行う。
<p>事業の対象 (「誰を」「どこを」対象として実施するのかを記載してください)</p>	<p>応急手当の普及啓発活動に対して参加協力する意向を有する市民活動団体を対象とする。</p>
<p>事業の実施予定場所 (「どこで」実施するのかを記載してください)</p>	<p>消防本部の他、市内の公共施設、事業所等申込者が希望する場所</p>
<p>協働する意義及び必要性相乗効果</p>	<p>意義や必要性</p> <p>心肺停止傷病者が発生した時には、救急隊が到着するまでの間の応急手当（AEDの使用と心肺蘇生）の有無が救命に大きな影響を与えており、このため消防署では、毎年150回程度の救命講習を開催し2,000人程度の市民（市内在勤・在学含む）が受講している。講習の指導者は、一部を除き消防職員が担っているが、年間の救急出動件数が7,000件を超える中、指導員の確保に苦慮しているのが現状である。</p> <p>今後も市民に応急手当を普及啓発していく上で、市民活動団体が救命講習の指導に協力していただけるならば、その分職員の派遣が減り、各種災害出動に対する備えが充実することができ、市民の希望する日時に講習を開催することも期待できる。</p> <p>市にとってのメリット</p> <p>市民活動団体の指導者が参加する分、非番日に動員される消防職員の指導者を減らすことができるので、時間外勤務手当の削減につながる。</p> <p>連携団体に想定されるメリット</p> <p>応急手当の指導者になるためには、成人教育の知識と技法を習得するため、他の講習会などに活かすことができる。また、市民活動団体が救命活</p>

	<p>動に関わり傷病者が社会復帰したときに、その一役を担った満足感や達成感が得られる。</p> <p>想定される相乗効果</p> <p>市民の命を守るという目的のために、行政だけでなく市民活動団体も協働して応急手当を普及していることが市民に伝わっていくため、その結果、安全安心なまちづくりの推進に寄与するものと考える。</p>																	
<p>役割分担 (市と連携団体がそれぞれ「何を」果たすべきかを記載してください)</p>	<p>市が果たす役割</p> <p>応急手当普及員講習及び指導員講習を開催し、指導者を育成する。</p> <p>連携団体に果たしてほしい役割</p> <p>積極的に知識、技術を学んで応急手当指導の担い手となり、より多くの市民に応急手当を教える。また、地元住民や知人に救命講習の受講を促す。</p>																	
<p>事業スケジュール</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="427 898 596 947"></th> <th data-bbox="596 898 1019 947">具体的な取り組み</th> <th data-bbox="1019 898 1444 947">実施体制、対象者、場所等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="427 947 596 1108">4～6月</td> <td data-bbox="596 947 1019 1108"> <ul style="list-style-type: none"> ・キックオフミーティング ・講習の日程調整 ・事前学習期間 ・すでに指導員の資格を有する方は指導活動を開始 </td> <td data-bbox="1019 947 1444 1108"> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通しての打ち合わせ ・新しく指導者となる方のための講習日程調整 ・ブースの移動実施 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="427 1108 596 1494">7～9月</td> <td data-bbox="596 1108 1019 1494"> <p>指導員資格のない方は指導員になるための講習を受講</p> <p>↓</p> <p>↓ (指導員資格取得)</p> <p>救命講習での指導補助経験</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>・すでに指導員の資格を有する方は指導活動を開始</p> </td> <td data-bbox="1019 1108 1444 1494"> <ul style="list-style-type: none"> ・消防本部で応急手当普及員講習(3日間)及び応急手当指導員講習Ⅲ(2日間)を受講し指導員としての資格を取得。 ※ 応急手当指導員未資格者の講習受講時間は8h×5日間 ・資格取得後、指導員として独り立ちできるよう、数ヶ月間指導員の補助に入る。 自身が受け持つブースの指導実施 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="427 1494 596 1749">10～12月</td> <td data-bbox="596 1494 1019 1749"> <p>指導員として独り立ち</p> <p>すでに指導員の資格を有する方も含めて指導実施</p> </td> <td data-bbox="1019 1494 1444 1749"> <p>自身が受け持つブースの指導実施</p> <p>(消防職員によるサポートあり)</p> <p>※ 普通救命講習×指導員の数年間指導回数延べ 100回 (指導者 100人分) の指導実施</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="427 1749 596 1910">1～3月</td> <td data-bbox="596 1749 1019 1910"> <p>広報等でPR</p> </td> <td data-bbox="1019 1749 1444 1910"> <p>市民が救命講習指導に参画していることを広くアピールし、応急手当に対する市民意識を高める。</p> </td> </tr> </tbody> </table>				具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所等	4～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・キックオフミーティング ・講習の日程調整 ・事前学習期間 ・すでに指導員の資格を有する方は指導活動を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通しての打ち合わせ ・新しく指導者となる方のための講習日程調整 ・ブースの移動実施 	7～9月	<p>指導員資格のない方は指導員になるための講習を受講</p> <p>↓</p> <p>↓ (指導員資格取得)</p> <p>救命講習での指導補助経験</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>・すでに指導員の資格を有する方は指導活動を開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部で応急手当普及員講習(3日間)及び応急手当指導員講習Ⅲ(2日間)を受講し指導員としての資格を取得。 ※ 応急手当指導員未資格者の講習受講時間は8h×5日間 ・資格取得後、指導員として独り立ちできるよう、数ヶ月間指導員の補助に入る。 自身が受け持つブースの指導実施 	10～12月	<p>指導員として独り立ち</p> <p>すでに指導員の資格を有する方も含めて指導実施</p>	<p>自身が受け持つブースの指導実施</p> <p>(消防職員によるサポートあり)</p> <p>※ 普通救命講習×指導員の数年間指導回数延べ 100回 (指導者 100人分) の指導実施</p>	1～3月	<p>広報等でPR</p>	<p>市民が救命講習指導に参画していることを広くアピールし、応急手当に対する市民意識を高める。</p>
	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所等																
4～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・キックオフミーティング ・講習の日程調整 ・事前学習期間 ・すでに指導員の資格を有する方は指導活動を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通しての打ち合わせ ・新しく指導者となる方のための講習日程調整 ・ブースの移動実施 																
7～9月	<p>指導員資格のない方は指導員になるための講習を受講</p> <p>↓</p> <p>↓ (指導員資格取得)</p> <p>救命講習での指導補助経験</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>・すでに指導員の資格を有する方は指導活動を開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部で応急手当普及員講習(3日間)及び応急手当指導員講習Ⅲ(2日間)を受講し指導員としての資格を取得。 ※ 応急手当指導員未資格者の講習受講時間は8h×5日間 ・資格取得後、指導員として独り立ちできるよう、数ヶ月間指導員の補助に入る。 自身が受け持つブースの指導実施 																
10～12月	<p>指導員として独り立ち</p> <p>すでに指導員の資格を有する方も含めて指導実施</p>	<p>自身が受け持つブースの指導実施</p> <p>(消防職員によるサポートあり)</p> <p>※ 普通救命講習×指導員の数年間指導回数延べ 100回 (指導者 100人分) の指導実施</p>																
1～3月	<p>広報等でPR</p>	<p>市民が救命講習指導に参画していることを広くアピールし、応急手当に対する市民意識を高める。</p>																
<p>その他</p>	<p>・市民が応急手当を学ぶための講習は6種類あるが、連携団体の指導者は、基本的に普通救命講習(3時間)の指導を担当する。</p>																	